

平成25年度事業報告書（25.4.1～26.3.31）

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じての国際間の相互理解の推進及び我が国文化の発展のため、下記の事業を行いました。

石洞美術館では、館蔵品を中心した展覧会を2回行うとともに、館蔵品とは異なる美術品の鑑賞機会を提供するため、個人コレクションを借用して「マイセン展 Part II」を開催しました。

助成事業では、海外調査の研究助成を中心に3件の助成をし、奨学金事業では、1名の留学生に奨学金を支給しました。

また、30回目となる淡水翁賞では4名を表彰しました。

II. 事業毎の概要

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

① 展覧会

- ・平成25年1月12日より4月7日まで「土屋コレクション 華麗なる色彩の共演 マイセン展」開催。
開館日数74日、来館者2,822名、1日平均38.1名
(内平成25年度 開館日数6日、来館者351名、1日平均58.5名)
- ・平成25年4月27日より8月4日まで「館蔵漆器展 一根来と漆絵」展開催。
開館日数86日、来館者1,386名、1日平均16.1名
- ・平成25年9月7日より12月15日まで「土屋コレクション 華麗なる色彩の共演 マイセン展 Part II」開催。
開館日数86日、来館者2,201名、1日平均25.6名
- ・平成26年1月11日より「館蔵仏教美術展 仏教の来た道」開催。会期は4月6日まで。
(1月11日より3月16日まで「インド細密画展」、同時開催
3月18日より4月6日まで「第30回淡水翁賞受賞者作品展」、同時開催)
3月31日までの開館日数68日、来館者1,080名、1日平均15.9名

② 広報活動

- ・千住大橋駅前に石洞美術館の案内看板を設置
- ・「ぐるっとパス2013」に参加

③ 資料の収集

- ・資料の購入

《陶磁器》古染付9件（向付3件20点、鉢1件、皿2件、茶碗1件、水注1件、印章1件）、天啓赤絵皿1件、琉球陶器3件（嘉瓶^{ゆしびん}2件、升瓶1件）

以上13件を購入

- ・資料の寄贈

津田義和氏より、インド細密画7件の寄贈を受けた。

④ 資料の貸出

- ・兵庫陶芸美術館「尾形周平」展（平成25年3月9日～5月26日）に「青花牡丹唐獅子兜鉢」1件を貸し出し
- ・出光美術館「古染付と祥瑞」展（平成25年5月25日～6月30日）に「茄子形向付」、「貝形鉢」、「開扇形山水人物文向付」ほか古染付、計11件を貸し出し
- ・MIHO MUSEUM「朱漆「根来」—中世に咲いた華」展（平成25年9月1日～12月15日）に「根来塗薬壺」、「朱漆端反鉢」、「朱漆足付鉢」ほか朱漆の器、計14件を貸し出し
- ・横浜ユーラシア文化館「遣唐使は見た！—憧れの^{コスモポリス}国際都市長安—」展（平成25年11月1日～平成26年1月13日）に「唐三彩花文腕枕」1件を貸し出し

⑤ 博物館館務実習受入

- ・青山学院大学2名

⑥ 美術館の連携

- ・私立美術館会議入会（平成25年10月）
- ・一般財団法人今日庵茶道資料館主催「第6回茶道文化検定」合格者の石洞美術館入館料優待（平成26年1月1日～12月31日）

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

- ① 米国ハーバード大学（東アジア言語文化学科）に対し当財団と土屋文化振興財団の双方で\$5,000ずつの助成を行いました。
- ② ジラルデッリ青木美由紀（トルコ共和国国立ボアジチ大学非常勤講師） 「トルコ共和国国立宮殿局所蔵の日本美術工芸品コレクションの悉皆調査」（研究助成）
- ③ 生田ゆき（三重県立美術館学芸員） 「アメリカにおける「型紙」研究の調査②」（研究助成）

以上3件、助成総額 ¥1,595,700

(2) 奨学金事業

- ① Bernarda Antony（インドネシア） 杉野服飾大学〔平成25年4月～平成26年3月〕

奨学金総額 ¥960,000

(3) 淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

第30回淡水翁賞については、所定期日までに9名の応募があり、選考委員会の議を経て、最優秀賞に岡本佳子氏、嵯峨卓氏、優秀賞に秋濱克大氏、見目未果氏が選出され、平成26年3月18日に授賞式を挙りました。

賞金総額 ¥1,000,000

附属明細書について

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

平成26年 5月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金